活力ある秋田 Vol.107

三泣き

［秋田市観光クチコミ大使］
東日本旅客鉄道株式会社　常務執行役員　淺見郁樹（あさみいくじゅ）氏

「三泣き」という話がある。初めて耳にしたのは「大湊の三泣き」である。

青森県下北半島の、鉞（まさかり）の付け根のようなところに、海上自衛隊大湊地方隊がある。自衛官は基地のある所を渡り歩くのが宿命だが、この大湊は別格らしい。列車に揺られ最寄りの大湊駅に向かうと、車窓の寂しさに知らずに涙するという。特に、真冬の地吹雪などに遭うと、涙も心も凍り付くそうだ。ところが、大湊で生活を始めると、地元の人情の濃さ、心の温かさに触れて心動かされ、思わず涙するという。そして、新たな任地に向かう日を迎えると、離れたくないという気持ちを抑えきれず、大湊駅のホームで堪えきれずに涙する。環境は厳しいが、そこで暮らす人の心は優しい。

自分自身、暮らしたことのない秋田に赴く時、秋田でお世話になっている時、そして秋田を離れる時の気持ちに似ていると思う。でも、何か違う。

「たしかに、冬の秋田の第一印象は東京育ちの私には凄まじく、峻厳だった。だがわずかここに来るまでに見かけた人々の顔、風俗は、意外にも穏やかで明るかった、なるほど環境はきびしい。だが土地の人々はむしろそれを超える逞しさと、明るさを身につけているという印象である。『なまはげ』だって、非常に素朴で明朗なものであることは、すでに写真その他で十分に察しがつく。『そうじゃないぞ』と言ったのは、私の直観だった。」、「ちらっちらっと通り過ぎる顔つき、目つき、動作。みんないきいきしている。」、「大人たちは頑丈だ。まなざしが底抜けに人なつこく、警戒の気配がない。」と岡本太郎は語っている。（岡本太郎著『日本再発見－芸術風土記』「秋田」）

そうだ、これだ。秋田の人は、圧倒的に明るい、楽しい、面白い。

美しい自然、温かく趣のある温泉、滋味あふれる食べ物など、観光の源となる宝物にあふれていると宣伝広告に言葉が踊る。しかし、本当の財産は、秋田の人の圧倒的な明るさ、面白さ、楽しさであると思う。旅行という限られた時間の中で味わえる人間味はほんの一端でしかない。本当の「秋田音頭」を知る人は少ない。秋田で暮らすことで沁みこんでくる、この奥深い人間味を、どうしたら味わってもらえるものだろうかと思案している。

「三泣き」はとてもいい話だと思うが、また来る、また行くというイメージが湧かない。「秋田駅に向かうと知らずと笑顔になる。秋田に居ると思わず楽しいことに出会う。一度離れた秋田に戻ってくると堪えきれないくらい面白い。だって、そこに秋田の人がいるから。」例えば、こんな「秋田の三笑い」という話などできないものだろうか。

下手の考え休むに似たり。秋田の皆さま、特に新聞、放送あるいは劇団などの皆さま、ここは一肌脱いでいただけませんか。本当は、明るく、愉快なことが大好きで、こういう話を創り上げることもお得意な方々ばかりだと記憶しております。

■略歴

昭和34年	東京都練馬区生まれ ほどなく埼玉県春日部市へ
昭和57年	東京大学　工学部卒業
昭和57年	日本国有鉄道入社
平成24年	東日本旅客鉄道株式会社　執行役員 秋田支社長
現　　在	常務執行役員　鉄道事業本部信濃川発電所業務改善推進部担当 建設工事部担当　大規模切換工事担当

秋田市観光クチコミ大使 … 秋田市に縁のある経済人や転勤等で過去に秋田市に在住経験のある方々に、身近な人々へのクチコミやインターネットでの情報発信を通じて、秋田市の観光PRにご協力いただくため委嘱している。